

# 自蹊庵便り

平成二十九年臯月

NO 125

く未だ見えざるもの多かれどく

しだいにございます。

もう十余年ほどになりました、師に

料理というものは無限の可能性を秘めているものと、その魅力に漠然とではあります。ですが直感のもとに突き動かされ、また、お人の心を養い、単純に元気にしてくれる解りやすい世界でもあるゆえ、兎にも角にも好きが高じて今日に至っております。

若かりし頃の動機は不純ながらも、こよなく自然と共成して歩んできた民族のなりわいに、事ある毎にふれ認識を新たにいたします。

出逢い、南方録に出会わせて頂きました。は、そこに出てくる数字がいつ頃生まれ、何を基準として物を計ったのであろうか等々、茶の湯の世界の一つ一つが興味深く、尽きない日々でございます。

何より生涯命ある限り省くことの出来ないもの、それが食！日々の食卓の景色はその日の心の有りよう一つにございます。その日、その日の心映えが彩りとなります。疲れたる時は手を抜き心を抜き、日々の食卓はその家々の文化を写しとります。

先人達の思いの声に耳を傾け、日々、唯々体を動かし続けております。


当然日本のものは皆、中国から渡って来たものなのでしょうが、尺そのものは古く中国の周漢以後のものが渡来したものと聞いています。では、渡ってくる以前の大和民族はどのような物に計っていたのだらうか等、想像に至れば、行き着く先は常に自然の中から生み出され、営まれてきたに違いなく、そう、それは一番身近なもの、自分の体を使っての一部分を尺度として計っていたそうです。



その日の心露あらわなるゆえ、これはどうも、我が身をいずこにか縛り付けておかねばならぬと、もともと貧乏性の性さがゆえでもあります。無知なるを幸いとして、恐れを知らぬままに茶事という世界に身を委ねた

食も自然の恵みゆえの存在、時間というものも太陽と月という奇跡の恵みから生まれたことを思えば、何一つ自然から離れて生まれたものはないことに、今更ながら、自然の秩序のうちに生かされている小さき者：と、頭を垂るる日々でございます。

ある本によりますと、拇指と中指を開いた付け根との広さを「あた」と云うそうで

す。「咫、尺」の字を当てます。「あ」は開く、「た」は手のこと、た「開け手」の意味だそうですよ。約二寸（六・一センチ）ほどの長さを云います。因みに八咫鏡は約一尺六寸になります。

こぶしを握ったときの四指分の長さを「あく」と云い、「握」と書きます。約四寸（十二・五センチ）です。これは容量にも用いられてきたようです。同じ意味のものに「つか」があります。「束」と書きますが、矢の長さを表すときは「そく」とも呼び、拇指を除く指四本を云うそうです。約八センチです。尺「さか」というのは、手指を渡して計る手の形が、で象形文字です。

象篆文では、です。計ってみると約六寸（十八・二センチ）です。ああ、そう云えばって、尺取虫という名、この形からきているそうですね。

寸（き）は、脈拍を測るとき一指で押さえて数えたので、一指の中を一寸と算かぞえる所（サン）を即ち算口と同意義であるため寸口と云うのだそうです。即ち一指の幅で

す。「貞丈雜記」という本によりますと、人差し指の中の節と上の節の間を一寸というのだそうです。「き」は「切る」の語源で、段（きだ）の意味とあります。

また、馬の丈を計るのに四尺を標準として馬丈と云い、それより一寸、二寸と高ければ、一寸、二寸、…、七寸、八寸と数え、五尺を十寸と云い、九寸以上を「丈に余る」と、古製の尺度の本に書かれてあります。なんで寸という呼び名でないのか読み進んでみますと、中国周の制によるもので、唐尺が渡って来たから「寸」と呼ぶようになったそうです。

また、両手を左右に伸ばして広げた時の左右の指の間の長さを広さの意味で「ひろ」といい、「尋」を当てています。これは法で定められたものではなく、商品や職種によって五尺（一五一・五センチ）とも、六尺（一八一・八センチ）とも云われていて、

繩の長さや水深の単位としても六尺（一八一・八センチ）だそうです。中国古製の尋は八尺で曲尺の六尺五寸（一九七センチ）程

度で、長さも意味も「ひろ」に相当したもので、この字が当てられたようです。

今、私達が覗くこのと出来るのは唯一、正倉院の宝庫に納められている象牙の物差しの美術品ですよね。（編集子注：正倉院御物 紅牙撥鏤尺）何とも云えぬ美しさを湛えた物差しのようです。私は未だ拝見の機会の無いまま写真で見ただけでございますが、古代の人々の自然の懐に抱かれての豊かさから生まれた芸術品に圧倒されます。

しかし乍らいずれも不思議なのは、国が乱れても、また古文書に書き記されてきたものなども、筆による手書きであれば、まして、書き写すしかない手作業のことを思えば、読み違い、写し間違いなども無きにしても非ずではなからうか：等々、古代中世をも越え曲尺が変わることがなかったこと、そして茶の湯の世界が、まさにこの曲割の世界を今に伝えてきているという、この不思議な世界をなぜ覗いてみたくなったか：と申しますと、余りにも解らないことが多過ぎ、南方録に触れている内に一体全体こ

## 東金教室御案内

お詫びとお断り

の完成度の高い数字は何処から来ていつ生まれたものか：と、芋づるの如く手繰り寄せてみれば、人の体、手指から始まっていることに納得するのです。

皐月の茶事（端午）

五月十四日（第二日曜）

五月十五日（第三月曜）

五月十六日（第三火曜） 研究科

席入り 正午

今月はゴールデンウィーク中、松江にての仕事があったためお便りが送れましたこと、また、読んで得するページと一筆メッセージをお休みさせて頂きます。

ほとんど手計りで日々仕事をしております。

点前担当者、水屋実習者 午前九時

編集子筆

ああ、何千年と時を経て人の知恵の根本

会費 一万円（レギュラー者）

松江の仕事は、松江春茶会（山陰中央新

は生活から、そしてその生活は自然と共に

一万二千元（単発参加者）

報、松江市観光協会）での仕事です。HP

あった。だからこそ、物差し一つにもあのような美しい芸術品を生み出してきたのでしょうか。

水無月の茶事（花あそび）

六月十一日（第二日曜）

六月十二日（第二月曜）

六月十三日（第二火曜） 研究科

席入り 正午

ご興味ある方は、御一読を。

誠に誠に未だ見えざるもの多かれど、覗いてみたきもの高山の如く、未だ麓にも辿り着けずにて七十余歳、一人の一人生で間に合うものなど無きに等しかれども、昨日よりは今日、何か一つでも先人の知恵に触れることができれば幸せ者としましようか…。

点前担当者、水屋実習者 午前九時  
会費 一万円（レギュラー者）

一万二千元（単発参加者）

八月の京都教室会場の変更について

(五千円・賄い食含む)は教室にて承ります。

伝心庵の住所

京都市右京区龍安寺西ノ川町三十番地

京都教室八月の会場が変更いたします。

電話 075-464-1133

二月には大雄寺様に大変お世話になりましたが、お盆月ということもあり、伝心庵に変更いたします。

※宿は二月にお世話になった「まくや」と伝心庵さんと両宿利用です。(伝心庵は二千円増し)、女性のみとさせていただきます。

地図

伝心庵は龍安寺から三分、仁和寺・妙心寺にも近い静かな佇まいの中にあります。築百年を越えた年月の手入れを感じさせてくれます。伝心庵に御縁を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。皆様と共にさらなる励みの場となりますこと、心より願いつつここに御報告申し上げます。

まくやまでの送迎はスタッフがいたします。お風呂は伝心庵のひのき風呂をお楽しみください。

京都教室レギュラーの皆様は、七月末日までに振込みの御協力をお願い申し上げます。(便りに振込用紙同封)

新しくファクスにてお申し込みくださった皆様にもお便りと共に振込用紙を同封させていただきますので、御協力のほど宜しくお願ひ申し上げます。(お振込は二万円のみ)

その他宿泊費(一泊四千元)、連日研修費

